

# 社会福祉施設等における 東日本大震災被災地施設視察研修

## 実施報告書

平成26年11月26日（水）

特別養護老人ホーム 望洋荘（福島県いわき市）

社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 社会福祉施設部会

栃木県社会福祉法人経営者協議会

## 目次

はじめに	P 1
参加者レポート	P 3
開催要項	P 9
参加施設	P 13
望洋荘の概要	P 14



## はじめに

栃木県社会福祉協議会 社会福祉施設部会主催による東日本大震災被災地施設視察研修として、平成26年11月26日に福島県いわき市にある特別養護老人ホーム望洋荘を訪問しました。

望洋荘は、沿岸に近い高台にある施設で、地震発生直後、津波から逃れてきた地域の方などの一時避難場所になりました。

今回の研修は、震災時における現地ニーズや活動内容について、被災した施設の方から直接話を聞き、社会福祉施設等の今後の災害時の対応を学ぶことを目的として開催したもので、県内13施設、21名の高齢分野の施設職員の方が参加しました。

参加者からは、「入所者を守るため、いかに協力してくか具体的な話が聞けた。」「備蓄品や災害マニュアルの見直しの参考になった。」といった声が聞かれました。

このたび、参加者レポートを実施報告書としてまとめましたので、社会福祉施設等における今後の災害対応などにお役立ていただけすると幸いです。

最後に、この視察研修実施に際し、須田施設長、濱尾事務長、須田副事務長をはじめ、特別養護老人ホーム望洋荘の方々に多大なご協力をいただきました。改めてお礼申し上げます。





左から濱尾事務長、須田施設長、須田副事務長



視察研修の様子（インフルエンザ等感染症予防のためマスクを着用しました）

## 「社会福祉施設等における東日本震災被災地施設視察研修」 参加者レポート

参加した理由・目的	視察研修で学んだこと	今後施設においてどのように役立てたいか	感想
・3.11を経験した望洋荘様に避難施設として経験された生々しいお話を、地域の方々にどんな貢献ができたのかをお聞きしく参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いわき市に津波が来るとは全く想定外だったこと(8.6m津波、施設40.7mの高台)</li> <li>原発被災を恐れて、ガソリンタンク車が来なくガソリン不足にとても困った。施設の下を走る国道が、津波で流された家・家でふさがれてしまったこと</li> <li>備蓄食料の在庫は利用者用3日分のみ。80床の特養に200人の避難者が来た。避難者名簿の作成が必要(地域から問い合わせが多数入った。)</li> <li>考えられないような雑用が発生する。(避難者を自宅に送るなど)</li> <li>食器は洗えないので茶碗にラップを敷いて使用</li> <li>3.11後に非常用飲料水を定期交換してくれる自販機メーカーに契約を変更した。</li> <li>施設が困窮状態にあることを地域ラジオで発信→とっても多くの物品が集まった。</li> <li>水洗トイレ使用不能便---おむつ</li> <li>区長・民生委員・森林組合など地域住民とのつながりはお祭り等で交流してきた。</li> <li>いただいてうれしいもの パン→すぐ食べられる、おにぎりー固くなる・いただきもので困った物品(野菜・魚ー調理不可の為)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時の食糧備蓄(カンパンは不向き、缶詰パン、缶詰おかゆは便利 5年間保管できる(カロリーメイト・水もある) 備蓄食材は食料が届くまでつなぐ役割)</li> <li>非常用物品(石油ストーブ 暖房、煮炊き可)</li> <li>自家発電機(カセットコンロ式2本2H)</li> <li>葬儀等に使う太いロウソクが役に立った。(ガラスの中に入っているタイプ)</li> <li>非常時用に太陽光発電があればとても助かるはず</li> <li>災害時の緊急電話 望洋荘ではピンク電話がとても役立った。 ※準備できる物品から、少しづつ準備をしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島第一原発の被ばくが今なお甚大な影響をもたらしていること</li> <li>若い住民は地元産のコメや食料を食べない、放射線量が基準値以下でも食べない、福島の港に荷揚げされた魚は売れず安くなるなど今も甚大な被害となっている。</li> <li>地域の拠点施設になる特養にはとても良い研修になった。また他施設の皆様との交流ができるつながりが広った。</li> </ul>
・災害時に必要な備蓄品や必要物品、その場にあって便利だった物や欲しかった物、利用者の状態の変化や職員の対応方法等を参考にさせて頂きたいと思い参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンパワーの力強さを感じた。</li> <li>ロウソクや石油ストーブ、ガスコンロ等、ひと昔前の生活必需品が便利だと改めて気づいた。</li> <li>高齢者はたくましい。戦争を経験し粗食に耐えてきた方々だからこそ、パニックにならずに過ごせたのですね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マニュアルは必要だが、その時々に対応できなければ意味がない。色々な災害を想定した避難訓練の実施や、今回伺った話を研修に活用し、災害が起きた時に何が必要なのか職員全體で話します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に管理職と職員が一致団結し利用者を守り、避難所として協力し合えたことがすごいと感じた。自施設において同じように協力し合えるのだろうかと考えさせられた。必要な備蓄品や役立った物等を伺うことができたので、早速足りない物を用意できるよう提案したいと思う。ありがとうございました。</li> </ul>
・災害時の対応、備蓄についてどれくらい準備をすればよいか知りたかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ使用時の紙の使い方</li> <li>電気・ガスを使わずにすむ手間のかからない食事</li> <li>水の備蓄</li> <li>ラジオ局等への不足(物資)情報、電力会社への連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>停電時、水道が使用できず、暖房、調理ができない時で、市役所、ご家族等から援助等が一切なかった時があり、大災害が起ったときを考え、食事、備品等を準備したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>およそその目安が分かったが、建物の損害が大きかった時には想像できない。</li> <li>災害伝言サービス等の登録を職員等に周知しなければならないと思う。</li> </ul>
・被災地の老人ホームを見学し、職員からの生の声を聞きたかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の協力</li> <li>備蓄品の種類と量(これがあつたら良かったという物)</li> <li>復旧までの苦労</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>備蓄品の管理や、どのように職員が働いたらよいか。</li> <li>望洋荘の体験を皆さんに教え、常に頭の中に入れておきたい。</li> <li>避難訓練の時に取り入れていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設長、事務長などから、いろいろな体験を聞けた事は、とても勉強になった。施設長が2ヶ月も寝泊まりしたり、職員も3~5日交代で入居者の面倒を見たりと皆の協力があったから出来た事だと思う。私達も入所者の為に職員の協力をいっそう強めていきたいと思った。</li> </ul>

参加した理由・目的	視察研修で学んだこと	今後施設においてどのように役立たいか	感想
・実際に震災を体験された方からお話を聞くことで、地域や施設等でどのように対応すれば良いのか。その時の状況にもよると思うが、少しでも多くの方法や手段・知恵を得て、万が一の時に備えたいと思い参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震当日の様子…想定外のことが起きる。</li> <li>・次の日からの生活…職員の力、家族の力、地域の力で助け合うこと</li> <li>・備えているといいこと…水・電気・ガスが使えなくなってしまったので、こんな風に工夫した等のお話が参考になった。</li> <li>・現状…津波だけなら復旧は早かったが、原発があるため遅れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、伺ったお話を報告書としてまとめ、施設に紹介した。備蓄について再確認ができた。地域の災害時の対応としても参考にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮市においても停電を経験し、そのために水が使えないなるような状況もあった。突然のことで焦りや不安があつたことを思い出した。今回の研修で学んだことを活かしていきたいと思う。</li> </ul>
・東日本大震災発生時、地域包括支援センター職員としてどのように地域と連携していくべきが、正直手探りの状態であった。大地震や洪水等の災害が発生する確率は、ゼロではない。万が一の備えとして、何を準備しておけば良いのか、災害に伴って派生する様々な出来事などを心構えとして得ておきたかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の地域との関わりが大切。バザーの売り上げを地域に寄付する、等の地域貢献</li> <li>・困っている事、助けて貰いたいことを、多様な媒体を利用して発信していく。 地元FM、NHKテロップ、ユーチューブ、ツイッターなど。若い人はネット発信で活躍してくれる。</li> <li>・長時間の輸送は死亡リスクが発生する。 →災害発生時とはいえ、避難での輸送にあたっては家族等への事前の説明と合意を頭に置きたい。</li> <li>・断水時の対応。給水所だけでなく、水道局まで取りに行く方法もある。</li> <li>・避難者の受け入れをする時は、避難者名簿を作成する。</li> <li>・ガスボンベは必須。火があれば、カップラーメンや非常食などがつくれる。不安な心理状況下での暖かい食べ物は心を和ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅で暮らす通常の避難所へは避難出来ない高齢者の方(虚弱、在宅酸素使用、ストーマ装着、認知症の方など)や家族の方に備えておくと良い事などを伝えたいと思う。また、そのような方たちの自宅が被害を受け、避難せざる得ない状況の時には福祉施設等に橋渡しのお手伝いをしたいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の視察研修、お世話になり有難うございました。移動のバスの中の時間に、薄磯地区周辺の被害状況について社協職員さんからの説明や画像(写真)等を観ながら参加者全員で共有できるとよかったですと少し思った。塩屋崎灯台の南側、薄磯海沿いの家屋がほとんど流失した様は、言葉にしようがありません。</li> </ul>
・以前、大雪で停電が長引き、オール電化の為、暖房、調理水の確保等で困ったことがあり、どのように対応、事前に準備していたのか等を学びたく参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石油ストーブ、カセットコンロ、毛布、水や保存食など事前に準備</li> <li>・一般の方が避難して来る事も考えられる為、名簿なども用意する。</li> <li>・ラップも多めにして用意。皿など洗わなくてもいいように使える。</li> <li>・コミュニティーラジオ等も使える。</li> <li>・備蓄品は多めに用意しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員が対応できるようにし、混乱せず動ける様にする。</li> <li>・物資の消費期限等も把握しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験して困ったことや、あれば役に立つ物などいろいろな話を聞くことができとても良かった。</li> </ul>

参加した理由・目的	視察研修で学んだこと	今後施設においてどのように役立たいか	感想
・震災が発生して3年が経過し当時の状況からは落ち着いてきたと思われる。 当時の状況をまずは知りたい。また現在、市との災害時協定に向けた締結を進めているところある。さらに、地域福祉活動計画を策定にあたり、その委員の一人として当施設からも参加しており、その中のテーマの一つに災害対策が挙げられている。そうした状況の中で、社会福祉施設として何が必要かを考える機会としたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の訓練計画等は策定されて、定期的な訓練は実施されているが、その後の体制等については考えられていない。有事の際の勤務体制についての大まかな確認と職員への周知が必要であること</li> <li>・避難所としての受け入れ人数の把握と受け入れるべき優先順位の確認</li> <li>・水・食糧等の確保と3日分では到底足りない状況</li> <li>・情報発信の方法、情報収集について</li> <li>・普段からの地域との交流や連携の大切さ</li> <li>・些細なものでも大いに役に立つものがあること 懐中電灯・卓上コンロ・ろうそくなど</li> <li>・避難者名簿の作成をしておくこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄品等については、施設保管分とは別に給食委託業者と改めて提携する。</li> <li>・卓上コンロ、ろうそく、懐中電灯などの数を増やしていく。</li> <li>・地域の自治会長、民生委員等との連携</li> <li>・職員安否確認方法の連絡網</li> <li>・できるところから体制や備品を備えていくこと</li> </ul>	・具体的なお話をうかがう事が出来て大変参考になった。 漠然としていたことや、災害時マニュアル等の見直しの参考として行きたいと考えます。ありがとうございました。
・震災時の施設の状況、その際の対応を知りたいと思った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備え。水、米だけではダメという事、地域との交流の大切さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能なかぎりの備蓄</li> <li>・石油ストーブやカセットコンロの用意</li> <li>・災害対策</li> </ul>	・実際に被災された方の話を聞いて、具体的に何が必要だったのか、何を行なうべきなのか参考になった。
・自施設でも2011.3.11を体験して、判断がうまくできなかった事もあり、食品の備蓄も反省あり、災害が大きかった地域での対応やこれからの対策をお教え頂きたい参加を希望した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害後の受け入れ体制(地域の方の受け入れ)</li> <li>・その場での対応・判断のむずかしさ、スタッフとの協力</li> <li>・今動ける人でどうするか判断する役が重要だと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に準備できることはする。</li> <li>・備品(石油ストーブ、カセットコンロ)</li> <li>・食料確保→業者との連携</li> <li>・災害マニュアル作成</li> <li>・地域行政との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験談は内容がイメージできて良かった。その時対応したケアスタッフの思いなどまとめてある資料等か話しが聞けると良かった。</li> <li>・備蓄の倉庫や状況など直接見られる良かつた。(施設見学しながら)</li> </ul>
・他の施設を見たり、他の施設の方のお話を伺う機会があまりないので、よい機会と思い参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災後に避難するか(動くか)どうかの判断で、結果的に動かない判断が正しかった、との話を伺ったが、限られた情報を基にした難しい判断だったと思う。</li> <li>・外部からの指示や援助よりも、当事者である自分たちの判断や主体的な行動で対処した内容を、多くの事例を挙げてお話しいただき参考になった。</li> <li>・職員や地域の人たちの協力の基に、大きな事故なく対応できた背景には、日ごろからの職員や地域との信頼関係があったことなど、多くの事を学ぶことが出来た。</li> <li>・震災の時、30分かかって避難場所まで移動できた利用者の方は半分ほどで、迅速な移動は到底無理、火事になつたら消すしかない、とのお話は、同程度の規模の自施設でも対応を考えおかないと痛感した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な防災準備に遺漏の無いよう、日常的に対応する。</li> <li>・具体的に想定される災害について、予想される被害と対応法について施設内で話し合う機会をつくる。</li> <li>・普段から地域社会や関係機関また職員同士、密にコミュニケーションを図り信頼関係をより強固にしておくよう心掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設長、事務長などの話を伺っていると、過度に構えたり極端な行動を取ることなく、自然体で対処してきた様子を感じ、それが良い方に作用したように思う。そしてそうできた背景には、施設の主役たる利用者の方たちが、災害とそれによる生活の変化に泰然と構えていてくれたことが大きく、職員たちの方が救われた面も多かったのではないかと感じた。</li> <li>余談として出てきた、町への流入人口(避難地域から避難している人たち)が働きかずに消費している話が印象的だった。</li> </ul>

参加した理由・目的	視察研修で学んだこと	今後施設においてどのように役立てたいか	感想
・異常気象、災害が至る所でおこっている報道をみると、安全であることはどの地域でも保証できない時代に入ったのではないかと思っていた。研修の募集を見て、どのように行動したか？当事者のお話を聞いてみたいと思った。施設としてどのような備えが必要か知りたかったので。	・当事者に情報はすぐには伝わりにくいこと ・4~5日しのげる準備をしておくこと ・かけつけられる人員を迅速に配置し、動かせる組織をつくること ・原始的な道具が、一番使い勝手がよいこと ・トリアージをして棲み分けをして、ケアの効率化、安全性を確保すること ・災害時のインフラ確保を平時に考えておくこと	・研修後、反射式のストーブをユニット、各部所毎に用意した。 ・災害時用物置の整理、必要物品の見える化を図った。 ・施設から逃げるのではなく、ここにとどまると決め、4~5日間の備えをしようと思っている。 ・給食用の納品も備蓄と見なし、対応にあたることを管理栄養士と協議したい。 ・災害用の電話の契約をした。	・自分の中で逃げることと、とどまつてしのぐことが、頭の中でまとめて考えていたが、お話を伺うことで、整理された。すぐにやらなければならないことが見えた。当施設のBSPをすみやかに作ろうと思った。企画していただき誠にありがとうございました。大変参考になりました。
・被災地域での災害対策を直で聞き、改めて自施設での災害に対する意識や物品用意を見直したいと考え参加した。	・想定を上回る災害も想定の範囲内とし対策を練る必要があるということ、助け合いの気持ちも重要だが、施設の特性上助けを求めるに来る(避難しに来る)割合も高いため、地域と充分に事前の話し合いが必要	・施設の備蓄品を見直し、出来る範囲で準備する。マニュアルを再整備し、別に携帯サイズのマニュアルも用意し、各自に配布	・視察に行った望洋荘の被災前の災害に対する意識や準備が現在の自施設と同じで、地理上、津波の心配はないとはいへ、地震等の災害時にどうなるかが具体的にイメージできた。災害時に有効な設備面では、思うところは一緒でも、やはり資金面での壁が障害になってしまった部分も同じなんだと感じた。
・H23.3.11、PM2時46分東日本大震災という未曾有の災害に見舞われ、さらに福島は原子力発電所の爆発もあり、日本人が経験したことのない、放射性物質の拡散もあり、現在も仮設住宅に住み続けている方々も多い。その後も異常気象(大雨・大雪・竜巻・火山噴火等々)が続き、自施設もいつ何時、何が起きるか分からず、どのように対応されたのかを知りたく参加した。	・ライフラインが途絶え、電話が繋がらない、食料品・物質・ガソリン不足もあり自然災害の恐ろしさ、命の大切さを実感させられると共に、利用者様を守る為に施設職員が一丸となり、普段ボーッとしていると思われた方も、水汲みが仕事と自発的に動いてくれ、見直したとの事。食事は2食、山から枯れ木を取って来てサバイバル生活をされた。 ・入居者の家族が食べ物・オムツ等を持参、職員は心強い。入浴はしばらく休み、排泄はペーパーを別に使用済みの水で流す事でOK、食器にサランラップを被せ洗浄をバス等と大変参考になる。	・今回の教えを念頭に置き、全職員が出来る事、指示する事等を一度に全部を伝えるのには、時間が掛かるが、伝えて、非常時に対応出来る様にしていきたい。	・研修に参加させていただき、聞くと見るとでは大違い。このような機会をもうけていただき、ありがとうございました。
・震災直後に泥出しボランティア等で数度、被災地を訪問したが、その後はだんだんと気持ちの中から震災の事が薄れつづったので、再度、現地を訪問して当事者のお話を伺いたいと思ったことと、自施設が被災した際にはどのように利用者の安全を確保し、また、近隣の方たちの役に立つことができるのか、実際の行動とそれに対する考え方をお伺いしたいと思った。	・“想定外”にならないよう、普段から“想定”し、“準備”をしておくことが重要だと感じた。また同時に近隣の方たちとのコミュニケーションも重要で、お互いに足りない所を補い合える“共助”的関係であることも再確認できた。	・災害が発生しても利用者の安全を確保でき、また近隣の方たちにとって安心できる場所と成りえるよう、今回の研修を参考に事前の準備を確実に進めていきたいと思う。	・現地の被災施設で、直接当事者からお話を伺えたのは貴重な経験だった。当時のお話の他、現在も生活に影響が出ている状況等、災害の影響の深刻さを感じた。何かしら支援できることは、今後も継続して行いたいと思う。またお話を参考に、自施設で災害が発生した際の準備も一つ一つ確実に進めていく、利用者の安全確保と近隣の方たちにとって安心できる場所となるよう改善をしていきたいと思う。

参加した理由・目的	視察研修で学んだこと	今後施設においてどのように役立てたいか	感想
・被災した施設の職員の声を生で聞くことが出来る良い機会だと思い、参加した。	・緊急時の対応は考えていたとしても、想定外の災害時では上手く機能しなく、問われるのは全施設職員の協力である。そしていまのうちから地域とのコミュニケーションが大切であると感じた。	・災害時に必要な物品の確認、連絡体制の再確認・見直し等に役立てたいと思う。	・道のりは長かったが、その分貴重な話が聞けたので意味のある研修だった。
①震災・津波・福島第一原発放射能についてどのように乗り越えてきたのか。 ②施設の震災時の状況(利用者様・避難者・職員の行動)がどうであったか。また、自分たちの施設も震災による被害にあったため、その時の状況と比べ、他の施設はどうどのように乗り切ったのか。 ③実際に役立ったことや物、今後のために何を準備すればいいのか。	・震災直後の最中、避難者約150名、施設利用者様とあわせて約250名を一晩お世話することは並大抵の苦労ではなかったと思う。 ・利用者様の安全を確保し、1週間の停電の中、ロウソク・卓上コンロ・手作りのかまど等を利用して残っている食材で工夫しながら食事を提供し、利用者様が不安でパニックに陥らないよう精神面を支えられたのは、利用者様と職員の方々との信頼関係が築けていたからこそできたのだと思った。 ・ボランティアの方々による様々な支援も、なかなか他人のためにできることを自ら行ってくださる気持ちにはただただ頭が下がる思いです。 ・職員・利用者様・地域住民・ボランティアが一丸となってこの震災を乗り越えられたのは、「チームワーク・助け合いの心・一人ひとりの力強さ・信頼関係」だったと思う。福祉施設職員として、冷静な判断力と利用者様との常日頃の信頼関係の構築が重要であると学んだ。	・「災害・非常時マニュアル」の見直しと定期的な読み返しが必要だと思った。現在施設では、自家発電機・石油ストーブ・卓上ガスコンロ、3日分の水・食料品(カロリーメイト・缶詰・乾パン・その他)やオムツを備蓄しているが、今回の望洋荘さんの件も踏まえ1週間分のストック、並びにいつでも、すぐ使えるよう定期点検の重要性を感じた。そして職員と利用者様とで、常日頃から災害や非常時の心構えについて話し合いの機会を持ち、意識付けをするようにしたいと思う。	・今まで視察研修はあまりなかったと思うが、今回は視察先の方から直接お話を聞くことができ、貴重な体験になった。できれば施設内も見学させていただきたかった。
理由)今まで東日本大震災の被災地を訪問出来なかつたため、いつかはどこかの被災地を見学したいという考えがあつたため 目的) ①被災地の復興状況確認 ②被災施設の現状確認 ③被災施設の当時の状況聞き取り	①震災直後と1週間インフラ途絶状況での施設の対応、取組みの姿勢 ②入所者、利用者、医療が必要な方々への介護、転院対応 ③指定避難所としての在り方 ④スタッフの勤務体制と対応取組の姿勢 ⑤備蓄食料、飲料水、備蓄品の揃え方、活用方法 ⑥施設運営全般	①事例報告として具体例を挙げながら、全体研修を開催し防災意識の高揚に努めたい。 ②防災委員会で資料を確認し、定期的な委員会活動の検討事項として取り組む。 ③防災訓練を施設のみにとどまらず、地域と一体となって開催を企画、実施する。 ④備蓄品、緊急招集体制、設備の確認等、日常業務を見直す。	・被災当時県北の事業所に勤務しており、自身も被災施設の復興作業に追わされて他地域、他施設の状況を把握、理解する立場になかった。とりわけ東北の被災現場には一度訪問したい思いがあつたため、今回このような機会をいただき、大変感謝している。震災の被害と記憶を風化させることなく、日常自分の出来るところから防災対策に取組んで行くつもりです。今後もこうした企画がありましたら、是非ご案内をいただきたい。

参加した理由・目的	視察研修で学んだこと	今後施設においてどのように役立たいか	感想
・震災時や、緊急時に、その場に自分も居あわせた場合、動搖してしまうと思われるが、冷静になって行動又、お年寄りに対しての声掛けなどを学びたいと思い、参加させて頂いた。	・お年寄り達は、第2次世界大戦を経験した人が多く、思っていたよりも動じなかつたとお話を聞き、「そうなんだ」と驚きと同時に、お年寄は、精神的にも本当に強い人だなど改めて学んだ。	・栃木県は、それほど大きな天災にはあってないが、「もしかすると…」を考え、職員皆でどう対応していくかなくてならないかなどを詳しく話しあっておいた方がいいと強く感じた。	・TVで被災状況を何回も拝見していたが、実際に海をみた時、この海がこの辺まできたのか…と考えてながら海をみていました。小さいお子さんからお年寄りまで苦しい思いをしたのだなと思い、言葉にならなかった。でも、皆、まわりの人達と助けあいながら人を思いやり、強く生きていた事を知り、あまい生活をしている私は、もっと強く、1日1日を大切に生きていかなくてはと考えた。 この研修に参加して、私は本当によかったです。また、何年か後に「あの日は辛かったが今は…」というような景色をみたいなと思った。本当にありがとうございました。
・東日本大震災から3年半が過ぎた。テレビでの画面で何度もくり返し悲惨な状況を見てきたが、私の住む地域では、それと比べると大きな被害があつたとはいはず、あまり実感できずについた。突然の事態でどう動くかを考えておくことが必要だと思った。	・食料品、水の不足や今の世の中電気がないという事は考えられないが、そういう事態をも想定しなければいけない。高齢者の生命を預っているという意識、その生命を繋ぐためにはどうしたらよいかを考えなければいけないと思った。	・火災による避難訓練は行なっているが、地震対策は特に行なっていない。個人での役割を前もって決めておく必要がある。	・直接話を聞けたことは、貴重であった。災害に遭遇した方が知るリアルな内容であった。2時間程の視察であったが、あつという間で、もう少し長く説明が聞けたり、質疑できるとよかったです。

## 「社会福祉施設等における東日本震災被災地施設視察研修」開催要項

### 1 目的

東日本大震災被災地施設への施設職員の視察を実施し、現地のニーズや活動内容について生の声を聞くことにより、社会福祉施設等における今後の災害時の対応について学ぶことを目的とする。

(26年度は高齢分野の施設を視察し、次年度以降に障害分野、児童分野の施設を視察する予定)

### 2 期日

平成26年11月26日（水）

### 3 視察施設

特別養護老人ホーム 望洋荘（ぼうようそう）

福島県いわき市平豊間字合磯39

沿岸部に近い高台にある施設で、地震発生直後、津波から逃れてきた地域の方など、一時避難をする場所となりました。

### 4 対象者 高齢分野の社会福祉施設等の役職員

### 5 内容

- ・施設職員の方からの説明（震災時の状況、現地ニーズ、避難者及び入所者・利用者への施設の対応など） 90分程度
- ・参加者から施設職員の方への質疑 30分程度

### 6 旅程

とちぎ福祉プラザ — 宇都宮IC—東北自動車道 — あぶくま高原道路・常磐自動車道路  
8:30

いわき湯本IC — 昼食（いわき・ら・ら・ミュウ「いちよし」） — 観察 —  
11:30～13:00 13:30～15:30

いわき湯本IC—常磐自動車道・あぶくま高原道路—東北自動車道—とちぎ福祉プラザ  
18:30

発着時間は予定です。

7 定員：40名

最少催行人数20名

8 参加費：県社協会員 3,000円

非会員 6,000円

※参加費に含まれるもの バス代、昼食代、傷害保険料

9 その他

参加者には、視察で学んだこと、感じたことについて、レポートを提出していただき、報告書を作成します。

10 申込み

・別紙【参加申込書】に必要事項を御記入の上、平成26年10月27日（月）までにFAXでお申し込みください。

・1施設2名以内でお申し込みください。

・定員を超えた場合、事務局で調整させていただきますので、優先順位の順に御記入ください。

・参加の可否について、お申し込みいただいたすべて施設へお知らせします。

11 主催 栃木県社会福祉協議会 社会福祉施設部会

栃木県社会福祉法人経営者協議会

12 問い合わせ先

栃木県社会福祉協議会 施設福祉課

〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階

社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 福祉部 施設福祉課

電話：028-622-0051 FAX：028-621-5298

特別養護老人ホーム 望洋荘概要（ホームページから抜粋）

法人名称

社会福祉法人 りんさく福祉会 平成14年12月4日設立

施設名称

介護老人福祉施設 望洋荘 平成15年12月1日開設

所在地

福島県いわき市平豊間合磯39番地

居室状況

全体を6つの生活棟に分けたユニットケアを目的とした個室風の居室

介護老人福祉施設（入所）

定員 80名

併設型短期入所生活介護（ショートステイ）

定員 10名

建物面積

3589.5m<sup>2</sup>

敷地面積

8812.9m<sup>2</sup>

建物構造

鉄筋コンクリート 地上二階 一部地下一階

職員構成

看護師・介護士・管理栄養士・社会福祉士・介護支援専門員・介護補助員・生活相談員・事務員

計57名

栃木県社会福祉協議会 施設福祉課あて(添書不要)

FAX 028-621-5298

「社会福祉施設等における東日本大震災被災地施設視察研修」申込書

平成 年 月 日

① 施設名 \_\_\_\_\_

② 県社協 会員・非会員 \_\_\_\_\_

③ 電話番号 \_\_\_\_\_

④ ファックス番号 \_\_\_\_\_

⑤ 記入者氏名 \_\_\_\_\_

1施設2名以内で、お申し込みください

定員40名を超えた場合は、事務局で調整させていただきますので、優先順位の順にご記入ください。

No	よみがな 氏名	性別	役職	職種	備考
1		男・女			
2		男・女			

「社会福祉施設等における東日本震災被災地施設視察研修」レポート  
報告書としてまとめ、ホームページで公開するなど活用させていただきますのでご了承ください。

施設名

氏名

○今回の視察研修に参加した理由・目的をご記入ください。

○今回の視察研修で学んだことをご記入ください。

○今後施設においてどのように役立てたいですか。

○今回の視察研修の感想をご記入ください。

12月25日（木）までにFAX（028-621-5298）または  
メール [mayoij@tochigikenkyo.jp](mailto:mayoij@tochigikenkyo.jp)により提出ください。  
-12-

社会福祉施設等における東日本震災被災地施設視察研修 参加施設

No	施設名	参加人数
1	社会福祉法人ふれあいコーポ（法人本部）	1名
2	小規模多機能型居宅介護・認知症高齢者グループホーム さくらハウス	2名
3	聖園ヨゼフ老人ホーム	2名
4	地域包括支援センター石井・陽東	2名
5	特別養護老人ホームつばきハウス	1名
6	特別養護老人ホームひかりの里	2名
7	特別養護老人ホームふじやまの里	2名
8	特別養護老人ホームまろにえ四季の里	2名
9	特別養護老人ホーム宮の里	1名
10	特別養護老人ホームゆずりは	2名
11	七井老人ホーム	1名
12	老人保健施設しらさぎ荘	1名
13	老人保健施設ほほえみ	2名
14	栃木県社会福祉協議会(事務局)	2名

介護老人福祉施設

# 望洋荘



—日々、いわき七浜の潮騒が聞こえる「ふるさと」に憩う—  
少人数で構成された、まとまりのある家庭的な生活空間で、  
安心と寛ぎとゆとりのある居住空間の場を提供しています。

社会福祉法人 りんさく福祉会



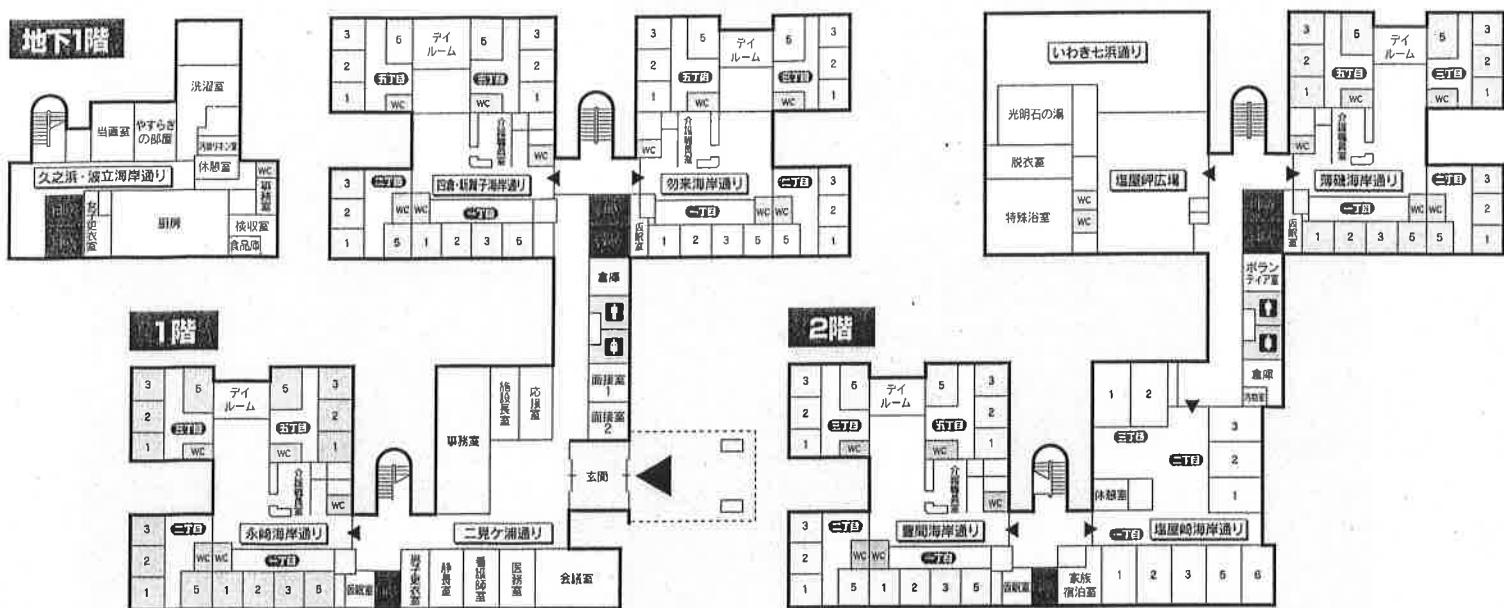
## 介護老人福祉施設

# 望洋莊

〒970-0224 福島県いわき市平豊間字合磯39番地

TEL 0246-55-7373

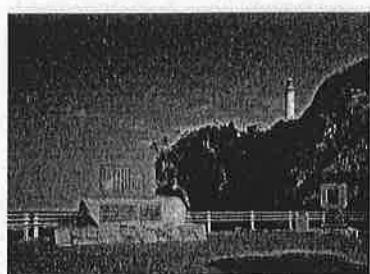
FAX 0246-55-7255



介護老人福祉施設(望洋荘)とは…

ご利用いただける方は、要介護者の認定を受けた方で入院治療の必要はないが、各種の在宅サービスを受けても自宅で生活するのが難しい、常時介護を必要とする方が対象となります。

施設では、四季折々の様々な行事を行い日常生活全般を支援し、さらに向上を目指します。



堀屋崎灯台、菱空ひばり遺影碑

施設概要

- |       |   |
|-------|---|
| ・法人名称 | 社会福祉法人 りんさく福祉会                                    |
| ・施設名称 | 介護老人福祉施設 望洋荘                                      |
| ・所在地  | 福島県いわき市平豊間字合磯39番地                                 |
| ・居室状況 | 全体を6つの生活棟に分けたユニットケア個室方式<br>80名                    |
| ・建物面積 | 併設型短期入所生活介護(ショートステイ) 10名<br>3589.54m <sup>2</sup> |
| ・敷地面積 | 8812.91m <sup>2</sup>                             |
| ・建物構造 | 鉄筋コンクリート 地上2階・地下1階                                |

短期入所生活介護

(ショート・ステイ しおやさき)とは…

一時的にご家族の介護ができなくなった時に利用できます。特に利用目的は問いませんので、お気軽にご利用下さい。